



オリジナル設計 西日本支店
岡山事務所技術課課長代理

鈴木 淳夫さん

■国内外の知見を考察に活かす

大学院を修了後、配属先は岩手と宮城の営業所でした。そこで計4年間の業務を経験し、その後は現在に至るまで岡山事務所に配属され、今年で入社19年目を迎えています。

東北の営業所時代には、岡山では経験することのできない降雪による現場測量の大変さなどを経験し、地域や現場条件の違いが大きいことなどを学べたことは良い経験だったと思っています。

また、ある時、仕事の関係で海外での設計業務を担当したことがあったのですが、「ステンレスなどの高価な材料は工事をした翌日には盗まれる。錆びても良いから鉄を使用し、ボロボロになったら取り替えれば良い」といった状況を体験

したことで、地域によっては日本とは180度違った視点で考える良い経験でした。

■維持管理時代だからこの水コンの役割

現在の下水道事業は、従前の建設工事を中心とした時代から、建設後の施設をいかにマネジメントしていくかが主な業務になってきています。また、今後の持続ある事業運営のためにも公営企業会計の適用や経営戦略の立案・実施が求められるなど、基盤強化に向けた取り組みがこれまで以上に求められる時代になっていく状況です。

そうした背景から、私が普段から担当している業務についても従来の施設設計はもちろんですが、ストックマネジメント計画の策定業務や公営企業会計の移行支援業務

の割合が増えてきており、本格的な維持管理時代の中でコンサルタントとして下水道事業の持続に向けた提案をしていくことを担っています。

■全体を捉える力を大切に

コンサルタントと聞くと「資料に埋もれながら

図面を引く」というイメージを持たれるかもしれませんが、当社では他のコンサルタントに先駆けて働き方改革を推進しています。特に本社だけでなく各事務所を含めたテレワークも可能

なICT環境を整備しているほか、事務所の配席を固定しないフリーアドレスを導入するなど業務効率化やコミュニケーションのさらなる向上も図っているところです。

さらに、年に1度は当社の菅伸彦社長が各事務所を巡り、アルバイトや社員と直接意見交換する場面を設けていたなど、上下の距離感が近く、何か困ったことがあればすぐに相談できる風通しの良い職場だと感じています。

一方で、設計図面を書きしていた時代からPCやCADというツールの変化によって、設計作業の利便性は大きく向上しましたが、設計の一部分のみを集中して考えるのではなく、対象全体を捉える感覚を大切にするのが今後のコンサルタントには求められるのではないのでしょうか。



全体捉え事業持続に貢献

公共事業の旗振り役



オリジナル設計 施設本部
東日本施設部施設三課

平澤 貴典さん

です。その施設に最適な機種を選定はどうしたら良いか、円滑に工事を進めるにはどのような配慮や工夫が必要か等、顧客の声に耳を傾けつつ最適な提案を心がけています。

設計という「図面と睨めっこする、図面を引く」イメージをもたれがちですが、部署を跨いでチームを編成し、自治体に代わり処理場設備全体の更新プランを立案することもあり、幅広い分野の業務に携わることができ、国内のみならず、海外にも仕事のチャンスがあります。

■ワークライフバランス実現へ

コンサルタントは人がすべての会社です。当社は業界内でも率先して従業員が働きやすい労働環境づくりを目指し、ワークライフバランスの実現へ各種取り組みを進めています。フリーアドレスやテレワーク環境を整えられており、加えて在宅勤務制度など、自由なスタイルで仕事が行えるのも魅力です。

■顧客の声に耳を傾ける

現在入社4年目で、下水処理場の機械設備の設計担当部署に所属しています。処理場にはさまざまな種類・役割の機械設備があります。新たな機械設備の設置や、老朽化した機械設備の更新などを手がけるのが主な業務

■公共事業の旗振り役
学生時代は水・熱の流体力学が専攻でした。下水処理の課程で行う曝気（微生物を活性化させるため液中に酸素を供給す

ること）効率の数値計算を研究題材とするなど、下水道に関心がありました。私自身、秋田県出身で、仕事を通じ地元貢献がしたいとの思いが強

く、就職セミナーを通じて秋田県で多くの業務を手がける当社を知ったのがきっかけでした。公共事業においてコンサルタントは民間サイドの旗振り役として大きな役割を果たしています。われわれが思い描いたものが形となり、地域社会に還元されるなど、社会貢献につながる仕事の魅力です。





施設本部東日本施設部施設二課

千葉 有紀さん

大学院応用生命科学研究科修了
入社3年目

途上国の下水道 が印象に

上下水道関連を主とする建設コンサルタントに入社した。もともと大学院で下水処理を研究しており、水処理の仕事に選もうと決めていた。コンサルタント、メーカーなどの業種は決めていなかったが、「説明会で話を聞いて良さそうと感じたのが決め手です」と入社動機を話す。

大学院に進んだのは研究をどこんやりたかったから。大学で卒論を期間内にまとめたが、時間があればもっといい成果を出せたと後悔が残った。大学院に進み研究で途上国を訪問、現地の下水処理を見学したことが

印象に残っている。「処理が十分でない汚水を放流した河川で生活しているのを見て、生活の基盤となる下水道の重要性を感じました」との体験が今の仕事につながっている。

基礎から 土木を学ぶ

入社して施設本部に配属された。同部は下水処理場、ポンプ場の設計を業務としている。入社して最初の仕事は下水処理場の耐震化に関わる業務。最初は用語が分からなかったが、「上司がていねいに教えてくれて、一つ一つ身につけていく」と思いました」と決意。上司から指示を受けて仕事をこなしていく日が続

下水道の設計を極めたい 担当した施設の完成が楽しみ

している。

最近はずっとクマネジメントの仕事が増えている。施設を適切に管理するための計画を作成するというところで土木、建築、機械、電気

の分野をそれぞれ担当する。「土木担当ということになりましたが、専門でなく最初はイメージが浮かびませんでした」と戸惑った。ここでも入社した時のようにあせらず一つ一つ身につけていくことになった。

仕事のやりがいはお客さまに成果品をわたすことだと言う。「仕事を進める過程でお客さまと様々なやりとりがあり、それを乗り越えて完成させることに魅力を感じています」と言う。お客さまからの感謝の言葉が印象に残っているそうだ。

快適な職場 環境で仕事

今は技術力を身につけることを第一に考えている。「下水道の設計は奥



フリーアドレス、テレワーク環境の整備が進んでいる

が深く、将来も続けることで極められるようになります」と話す。職場は仕事しやすいようにノートPC、iPhoneが支給され、フリーアドレス、テレワーク環境の整備が進み様々な場面で仕事ができるようになってきている。「LInetworksを導入しグループトークやビデオ通話を活用しています。部署内外問わず、すぐに連絡がとれ、業務効率向上、労働時間の短縮に役立っています」という。また、業界トップクラスの労働環境を目指したワークライフバランスの取り組みを行っており、「自分の生活にあった仕事ができると思います」と満足している。



オリジナル設計

樋口 大輔氏

■入社のかきかけ

顧客が官公庁である安定性と、都市活動を支えるインフラ分野に携われるという公共性の高さに魅力を感じました。

もともと、埼玉県内の大学で建築を専攻していました。卒業後、同県内のガス供給会社に就職しましたが、1年後に実家の都合で地元・新潟に帰郷せざるをえず、地元で就職先を探す中で、偶然、オリジナル設計が新潟事務所の現地採用募集をかけていました。

その時初めて同社と水コンサルタント分野に触れ興味を抱いたのがきっかけです。

■10年前の私

10年前は、ちょうど大学で建築の勉強と、部活動として小学生から始めたサッカーに勤しんでいた頃です。

入学時に3年生までに必要単位を取得し、4年生では卒業論文と就活に専念する計画を立て実現しました。内定も仲間内で一番乗りです。もちろん、空いた時間は友人らと楽しい時間も共有しましたが、今振り返ると限られた交友関係に拘らず、大学生ならではの余暇を有効に活かし「今以上に遊び多くの人とかかわれ」と背中を押したいですね。

社会人として過ごす中で、余暇はなかなか持てませんし、そうした経験が将来生きることが今は分かるからです。

■入社してからの自分を振り返って

入社して今年で6年目の30歳ですが、この会社と出会えてよかったと心底感じています。当然、周りの支えがあってこそです。ですからあっという間の6年間です。

私の仕事は下水道施設の計画立案で、主に5～7年間で実施する予定の施設の配置等を定める計画を手掛けています。最近、建設専門新聞に私が手掛けた雨水ポンプ場建設計画が掲載され、改めて仕事の重要性を認識し、地域社会への貢献を実感しました。公共インフラですので責任も重く、完成後、現地に足を運んでしまうこともしばしばです。

3年前に手掛けた浸水対策の計画では、雨水対策施設の設計を伴う計画で、完成後、対策の効果が確認されています。昨年結婚した妻を現地に連れていき自慢していますが、あまり関心が無いようです(笑)。

人づくりでできる管理職に

■10年後の自分

今の職場では、素晴らしい先輩方との出会いに恵まれました。特にお世話になったのは所長です。忙しいはずなのにいやな顔一つせず、公私ともにケアしていただきました。そのおかげで今、仕事が楽しくて仕方ありません。

入社時の事務所は約20人で、若手は私一人で正直戸惑いましたが、今では9人に増えました。

所長にしてもらったように若手を支え、オフにはバーベキューなどを企画し仕事がしやすい環境づくりを心がけています。必要があれば、会社に提案し主体性を持って何事にも臨んでいます。

10年後には、今いる若手社員の中でリーダーシップをとり「人づくり」を実践できる管理職になれたらいいですね。

■こんな会社です

計画・設計の仕事の答えは、一つではありません。案件ごとにゼロベースから積み上げ自治体に提案する仕事は、難しさこそあれ、やり甲斐を感じています。

日々工期とコストという現実と向き合いながら、時間を忘れ計画づくりに励んでいます。計画が採用された時の充実感は何事にも代え難く、自分の成長につながっていると実感できます。

特に世界的な異常気象傾向が指摘され、新潟でも豪雨被害が頻発しています。地域・住民を大雨洪水から守ることが仕事ですので、残念ながら、これからさらに忙しくなると覚悟しています。

私が考える水コンサルタントは「足で稼ぐ」が信条です。現場に通い、その土地の特徴や歴史を調べ、自治体に寄り添って地域に最適な計画を立案します。今では自治体担当者からよく相談の連絡が入るようになりました。嬉しい限りです。

■就活生の皆さんへ

当社の菅伸彦社長は、毎年全国の出先組織を回り社員との意見交換会を開いてくれます。その場で「若手の面倒を見てくれよ」と直接声を掛けていただきました。

また、所長と課長の後押しもあり、当社初の県内リクルート活動を行い、社長賞を頂戴しました。それにより3人の採用に結びつけました。

チャレンジさせてくれる会社であり、誠実に仕事に取り組めば、年齢に関係なく責任のある仕事も任せられる会社です。

素直で前向きな人であれば私同様、土木や衛生を専攻していなくても、責任もって育て上げます。みなさん、挑戦してみたいはいかがですか。

(東日本支店新潟事務所技術課所属)



西日本支店福岡事務所技術二課

許斐 正昭さん

工学部社会デザイン工学科卒 入社3年目

下水道計画を業務に

オリジナル設計は昭和37年に創業した上下水道関連を主とする建設コンサルタント。環境保護・防災・エネルギー利用等に寄与する関連施設の計画・設計など自治体に向けての技術的な提案などを行っている。

許斐さんは、福岡事務所技術二課に勤務。下水道事業に係る計画業務を担当する。

「計画業務は、下水道の整備方針を決定する『基本構想』、概ね20年後の人口予測等から、公共下水道の予定区域における処理場・幹線管渠など根幹施設の規模や配置を考える『全体計画』、優

先度の高い区域において5から7年の間に整備可能な内容を策定する『事業計画』などがあります。技術二課ではこうした業務を担当します」と説明する。

大学時代の研究活かし

「社会インフラの設計に関する仕事に興味がありました。大学では水質浄化に関する研究を行っていましたし、学んだ事を活かせる業界に進みたいと思っていました。教授の薦めもあって当社に入りました」と志望動機を話す。

入社後、1年目は先輩からのOJT、2年目から主担当となって自分で資料収集・計画策定を行

うようになる。「心がけていることはお客様の分りやすい説明です。当初は、自分本位な説明の仕方や早口になっていたりもしました。初めて見た人でも分かりやすい資料作り、話し方を模索しながら業務に取り

組んでいるところです」と語る。

仕事で行き詰まった時に頼りになるのは先輩だ。「技術的な内容など上司や先輩に相談し、実際の対応の仕方などを確認します。困ったときにも気軽に相談できるのが当社の社風です。当社の強みだとも思います」と。

「現在、上下水道など公共施設は耐用年数を迎え、多くが更新の時期と

熊本地震では支援活動も

今は下水道部門の計画設計のみだが、今後は実設計、さらには水道部門も手がけてみたいという。

「現在、上下水道など公共施設は耐用年数を迎え、多くが更新の時期と

なっています。今ある施設をどのように活用していくのか。あるいは維持管理についての提案なども行いたい」と今後を話す。

また「建設コンサルタントはおお客様からのニーズに対応する具体的な方法を提案・設計します。そのため、技術的な内容を含め、熱心に質問されることが多く、人に必要とされることを実感できる仕事だと思っています。また熊本地震などでは支援活動の一環として現地調査も行いましたし、社会貢献度の高い仕事です。就職を考える学生の皆さんにも興味を持っていただけだと思います」と呼びかけている。

全体・事業計画の策定担当

社会貢献度の高い仕事



熊本地震の現場調査

オリジナル設計株

生活環境の保全に

オリジナル設計は、昭和37年に創業し、今年で53年目になります。

“生活環境の保全に貢献する”を企業理念に、上下水道を基軸にした生活環境関連施設の計画・設計サービスを提供しています。豊かな水との暮らしの実現に向けて、日々業務に励んでいるところです。

私は大学で土木を専攻しており、入社してから本格的に上下水道に接しました。今年で3年目になり、現在は下水道部門の機械関連の計画・設計業務を担当しています。

下水道の計画策定など

高度成長期に下水道の普及拡大が進み、近年は施設の老朽化が深刻な問題になっていきます。

下水長寿命化に携わって 広く環境改善への貢献も

全国の自治体は下水道施設の更新や長寿命化に

対する取り組みに着手し、その計画策定や関連する処理施設、ポンプ場などの計画・設計、或いは新設など、主に西日本を担当地域に携わっています。

としては、毎日が勉強です。

下水道は、機械ばかりではなく、土木、建築、電気など様々な分野が関係し、広い知識が必要になります。

入社後は、先輩社員について仕事を覚えていくのですが、下水道事業者やメーカーの方々からお話を聞き、いろいろな人と接することで知識が身についてくるのが分かります。

社会貢献を実感し

私の出身地である福岡市も集中豪雨による甚大な浸水被害が発生したことがあります。

設計指針はあるものの、地域それぞれに特色がありますから、その地域に合った計画を作っていくことが難しくもあり、楽しいところです。まだ3年と経験の浅い私

当時の被害状況を知っているだけに、浸水被害の解消を目指した下水道事業に携われることは、非常にやりがいがありますし、社会に貢献ができる仕事に就けたと実感しています。

今はまだ自分の業務をこなすのに精一杯の状況ですが、将来的には水道を含め、広く環境改善にも貢献できるような仕事に関わっていきたいと思っています。



下水道の計画・設計を担当